

自己評価チェックシート

NPO法人「日本で最も美しい村連合」審査評価基準 チェックシート		自己採点記入者名 木村卓泰	加盟町村（地域） 秋田県小坂町	
審査日（2022年9月26日～9月27日）		格付評価	格付（A～D）	
審査項目		審査員コメント		
審査前提	■田舎としての特徴を持っている事（基本項目） 直近の住民基本台帳上の人口が概ね10,000人以下 地域資源が2つ以上あること 第1次産業が地域の基幹産業として認識されていること 連合に加盟することへの議会の同意がとれていること	↓ いずれか選択	該当有り 該当有り 該当有り 該当有り	
	■「日本で最も美しい村」連合加盟村にふさわしい方針と景観を持っている事（必須事項） 連合の長期ビジョンと方向性が一致する長期ビジョンを有している。 もしくは5年内に策定するコミットメントがある。	■第6次小坂町総合計画（前期基本計画/2021年度～2025年度） 基本構想 ・町民が幸福で暮らしに安心・魅力・楽しさのあるまち ・風土を守り、躍動・成長を支えるまち ・これからも住み続けたい、訪れたい、関わりたいまち		
	I			
	II 連合加盟村にふさわしい魅力的な地域資源を有している（地域資源）	生活の営みと深い間わりのある景観が存在する事	格付評価	A
	①伝統的なまちなみや統一感のある木造建築がある	【美の基準】 ・村の目印 ・歩く楽しみ ・ほどよい建物の大きさ ・土地から生まれた形 ・自然な材料と職人の仕事 ・暮らしの中の芸術	■明治百年通りおよび近代化産業遺産 国重要文化財「康楽館」や「小坂鉱山事務所」をはじめとした近代化産業遺産群を集結し、「明治」という小坂鉱山の繁栄と町が歴史を重ねてきた証をコンセプトに、統一感を保持した街並みを形成している。また、それらをただ保存するのではなく、観光や地元住民の憩いの場として活用することで、今後も持続可能なものとするための役割を担うよう努めている。 ■十和田ホテル 北東北三県に宮大工を集め、その技術を競わせて建てられた国有形登録文化財の秋田杉の館。巨木を巧みに配し、各部屋の意匠もひとつひとつ異なるこだわりと静寂に包まれた大自然にとけこむたたずまいは十和田湖西湖畔を象徴する木造建築となっており、県内外問わず多くの観光客に親しまれている。	←この欄に格付け（A、B、C、D）を記入。B、 A：伝統的な統一感（材質、色調、様式など）のある木造建築のまちなみが集落として完全に（保存状況が良いということ；歯抜けになっていない）保存されている。 BC：伝統的な木造建築のまちなみがあるが、統一感や集落景観としては改善の余地がある。
②周囲の豊かな自然環境に根差した里山・里海の生活の営みによって作られた景観	【美の基準】 ・暮らしの営みが息づく場所 ・村の目印 ・日常の暮らしの記憶 ・歩く楽しみ ・ふさわしい色 ・土地から生まれた形 ・土地の植物 ・ふだんの緑 ・里山・里海の風景	■十和田湖西湖畔 グリーンタフのように緑に輝く湖面は、カルデラ湖という特徴的な十和田湖が形成される過程で作り上げられた美しい景観である。十和田ふるさとセンターにサップやカヌーなどの水上アクティビティ拠点が確立されたことにより、陸上や大型船では決して見ることのできない美しい景観を自然に溶け込みながら満喫することができる。 ■大地地区のひまわり 「守りたい秋田の里地里山50」にも選定されたひまわり畑。規模は決して大きくはないものの、大地地区的住民が協力し合い、農地を守るためにひまわりを植えている。良く手入れが行き届いているため、毎年夏になるとその風景がまたれている。	A: 周囲の豊かな自然環境を背景とした、里山・里海の生活の営みによって作られた独自の人が認める美しい景観が存在し、今も生活の営みにより守られ続けている。 BC: 里山・里海の生活の営みによって作られた景観が存在するが、独自性が低く特徴があまりない。社会的経済的理由により景観や周囲の自然環境の存続が危ぶまれている場合もある。	
文化が存在すること	格付評価	B		
①地域に根ざした伝統芸能や歴史的に地域と歩んだ祭礼等が継続している	【美の基準】 ・聖なる場所 ・村の目印 ・助け合い ・人が集まる場所 ・ハレの日	■小坂音頭 康楽館の復活を機に生まれた踊りが今や老若男女問わず、町民であれば誰でも口ずさめるといつて良いほど町を代表する芸能のひとつとなっている。30数年の歴史であるものの、今後町の伝統芸能として継続していくために、町民によるグループ「小坂音頭の会」が中心となり、学校でのレクチャーやイベント等での披露を通じ、普及に努めている。 ■小坂七夕祭り 青森ねぶたの流れをくむといわれる町の伝統的な祭り。それまでの地区単位だけではなく、若年層による団体や有志によって形成された団体での山車の制作、運行も行われるようになり、新型コロナウイルス感染症の影響等により祭りの存続も危ぶまれたが、こうした団体の参加は継続され、多くの観光客や町民が集う場として祭りを継続することができている。	A: 地域に長年に渡って受け継がれてきた、独自性が強く文化的な価値が高い伝統芸能や祭りの継続について住民が継承取り組んでいるとともに、全国からの来訪者にも支えてもらっている。 BC: 地域に伝えられてきた独自の芸能や祭りがあるが、その継続について課題がある。	
②地域の素材を活かした食文化や地域が育んだ伝統工芸が存在する	【美の基準】 ・日常の暮らしの記憶 ・自然な材料と職人の仕事 ・地の生む材料 ・庶民の手仕事 ・食に関わる職人	■小坂七滝ワイン 太古の十和田湖の噴火により堆積した火山灰土壌という特徴を活かし、長年改良を重ねて育てられた「山ぶどう」系品種を原料に、2017年醸造開始した小坂七滝ワイナリーで製造されるこだわりの純小坂産の日本ワイン。瓶詰めされたものは一定温度が保たれる「小坂鉱山事務所」の中で熟成をかけるなど、とことん小坂町にこだわりながら、地元食材とのマリアージュを活かすなど、未来へ向けた新たな食文化を形成している。 ■アカシアはちみつ 鉱山の煙害により町中から木々が失われたことを機に植えられ、いち早く木々を復活させ、今では町に約300万本以上の群生があるといわれているアカシア。小坂町の花でもあり、それから採れる濃厚なはちみつは町および周辺地域で養蜂され、町の特産となっている。	A: 地域に世代をまたいで伝承された伝統素材を活かした独自性の高い、食文化や伝統工芸が存在するとともに、来訪者などよその人にも享受してもらっている。 BC: 地域の素材を活かした食文化や伝統工芸が存在するが、課題がある。	

◆世襲財産の継承			
世襲財産を保護する公的な規制が存在する 景観保護条例や開発規制などが制定されている	格付評価 【美の基準】 <ul style="list-style-type: none">・歩く楽しみ・ほどよい建物の大きさ・ほどよい便利さ・里山・里海の風景	B ■小坂町景観条例 2014年制定。町、町民、事業者等の協働による良好な景観形成を推進し、美しい自然及び景観の保全を図り、愛着と誇りの持てる郷土の実現を図ることを目的とし、制定され、それに基づいた景観の整備、維持に努めている。	A:景観条例に加えて広告物規制が整備され、村内には私的な広告看板がない。 BC:景観規制の条例があるが、課題がある。
◆住民参加			
地域の価値を高め、発展させる努力 ①交通量の一時的又は永続的な制限がある、駐車場の整備されている	格付評価 【美の基準】 <ul style="list-style-type: none">・歩く楽しみ・ほどよい便利さ	■明治百年通りのイベント開催時の通行規制 路線バスの運行経路であるなど、観光地としてだけではなく、生活とも密着した道路であることから、永続的な制限までは至っていないものの、アカシアまつりやクリスマスマーケットといったイベント開催時には、通行規制を設けることで、町民はもちろん、観光客にも楽しめる空間を生んでいる。	A: 世襲財産該当地区への車の乗り入れ禁止とそれを可能とする規模の駐車上の整備ができており、I/Uターンの増加、交流人口の増加などにつながる成果が出ている。 BC: 交通量の一時的な制限があり、駐車場の整備がされているが、課題が残っている
②木造建築の保存・復活・活用に取り組んでいる	【美の基準】 <ul style="list-style-type: none">・日常の暮らしの記憶・ほどよい建物の大きさ・土地から生まれた形・自然な材料と職人の仕事・地の生む材料・暮らしの中の芸術	■近代化産業遺産の定期的な修繕（国重要文化財の許認可事項） 「活用なくして保存なし」を掲げ、着実にそれを実行するために、文化財保護の観点と観光客をはじめとした利用者の安全確保の双方の視点から定期的な点検を行い、それらをもとに定期的な修繕を行っている。	A: 木造建築を復活・活用した賑わいのある中心街地づくりに取り組み、I/Uターンの増加や交流人口の増加などに繋がる成果が出ている。 BC: 木造建築復活、活用に取り組んでいるが、課題が残っている。
③電線・電話線の設置に関する考慮がなされており、ルールが制定されている	【美の基準】 <ul style="list-style-type: none">・歩く楽しみ・里山・里海の風景	■明治百年通りの電柱地中化 近代化産業遺産群を中心とした明治の街並みを守るために、電柱の地中化を実施し、その景観維持に努めている。	A: 電線・電話線の設置に関するルールが制定され、電線・電話線の再配置が実現されて景観価値を高めている。 BC: 世襲財産該当地区での電線・電話線の再配置に取り組んでいるが、課題がある。
④全体の色彩や素材に関する考慮がなされており、ルールが制定されている	【美の基準】 <ul style="list-style-type: none">・日常の暮らしの記憶・ふさわしい色・地の生む材料	■小坂町景観条例 町全域を景観計画区域に指定し、自然地区、市街地地区、重点景観形成地区に細分化したルールを設けている。	A: 景観条例等により色彩や素材に関するルールがあり、その適用が進み統一的な集合景観価値が高められている。 BC: 自主的な色彩や素材にかんする景観配慮に対する取り組みがされているが、課題がある。
⑤看板の設置に関する考慮がなされており、ルールが制定されている	【美の基準】 <ul style="list-style-type: none">・歩く楽しみ・里山・里海の風景	■明治百年通り 看板は明治を連想させる統一のあるデザインとし、街並みとの調和を図っている。	A: 看板や掲示物、のぼり旗の設置を規制するルールが制定され、実効的に景観価値を高める機能を果している。 BC: 景観を損なう看板の設置に対する規制はあるが、課題がある。
⑥地域で認定されたガイド制度が存在している	【美の基準】 <ul style="list-style-type: none">・歩く楽しみ	■小坂町観光案内人協議会 2003年の設立以来、明治百年通りおよび十和田湖西湖畔遊歩道の案内を中心に活動している。町内外での研修によるスキルアップや町のイベントへの参画、学生ガイドの体験イベントの実施などを通じ、普及に努めることで会全体の底上げに取り組んでいるが、専門性が高く魅力的なガイドの育成と新規会員の獲得には大きな課題がある。	A: 地域で認定されたガイド制度が存在し、持続的で専門性が高く魅力的なガイドが複数活躍しているとともに、継続的なガイド育成の仕組みがある。 BC: 地域を案内するガイドがいるが、課題がある。

地域の活力を高め、発展させるための住民の自主的な取り組み	格付評価	B	
①植栽や草刈りなど住民の自主的な美しい村づくりの取り組みがある 【美の基準】 ・土地の植物 ・助け合い ・里山・里海の風景	【美の基準】 ・土地の植物 ・助け合い ・里山・里海の風景	<p>■自治体全体としての取り組み 大川岱自治会による十和田湖畔の「樹恩の鐘」周辺の草刈り整備や藤原自治会による日本の滝百選「七滝」周辺の草刈り整備、大地自治会による大地地区の「ミズバショウ群落」の草刈り整備に代表されるように、町ならではの自然景観が形成される箇所に対して、自主的に取り組む自治会を町もサポートする体制をとっている。</p>	A: 植栽や草刈りなど住民の自主的な美しい村づくりの取り組みがあり、地域の景観形成に大きく貢献している。 BC: 自主的な住民の植栽や草刈り運動が存在するが、課題がある。
②自主的に運営されている住民活動があり、組織化されている 【美の基準】 ・助け合い ・ハレの日	【美の基準】 ・助け合い ・ハレの日	<p>■パソコン・スマホサークルハ重桜 シニア層のパソコン・スマホのスキルアップを目的とし、町民により立ち上げられた組織で、活動を通じ、町民の中でそのスキルを持った担当講師が中心となり、町の観光PR動画の作成、YouTubeへのアップなど個人の活動を超えた取り組みも行われている。</p> <p>■小坂鉄道保存会 町外の会員も多く、鉄道関係者など多様な人材で形成される組織であり、「小坂・鉄道まつり」をはじめ、小坂鉄道レールパークの体験観光プログラムの企画運営に協力している。</p>	A: 地域の多様な人材による、美しい村づくりに関する住民の自主的な活動が持続的に展開される組織があり、行政がしっかりと支えている。 BC: 地域に自主的に運営されている住民活動があるが、課題がある。
③住民活動と行政の活動が連動している 【美の基準】 ・助け合い	【美の基準】 ・助け合い	<p>■康楽館友の会 康楽館の復活を支援する活動がはじまりとなり、その後は側面から康楽館をサポートする住民による組織である。円滑な運営と施設側との橋渡し役として、町に事務局を設けている。</p>	A: 住民の自主的な活動を効果的に行政が支え、共に当事者として地域の発展に寄与している。 BC: 住民活動と行政の一體となった活動があるが、課題がある。
④独自性のある良質な行事が存在している 【美の基準】 ・助け合い ・ハレの日		<p>■クリスマスマーケット 明治時代に小坂鉱山へ赴任したドイツ人技師が伝えたとされる水彩画の記録から、「近代クリスマス発祥の地」として2013年よりイベントを開催。それまで町中心部に冬期間多くの町民や観光客が集う場がなかったが、現在では定着化している。</p> <p>■濁川の虫送り 町北部の濁川地区で江戸時代にはじまったといわれる行事で町無形民俗文化財。人出不足で一度途絶えるも、青森県でのイベントをきっかけに復活し、大切に継承されている。</p>	A: 地域の活力を高め発展させるための、独自性のある良質な行事が継続しており、住民の誇りや愛郷心を醸成する効果が出ている。 BC: 独自性のある行事が実施されているが、課題がある。
⑤行事の際に使用可能な屋内、屋外の場所が存在している 【美の基準】 ・助け合い ・人が集まる場所 ・ハレの日		<p>■小坂中央公園・国際交流広場・小坂町交流センターセパーム 小坂中央公園や国際交流広場といった屋外施設では、アカシアまつりやワイン創業祭などのイベントが開催され、これらは明治百年通りという観光客も集うエリアと一体になった立地となっている。また、屋内施設である小坂町交流センターセパームは、小坂小中学校と隣接し、教育委員会の拠点でもあることから、学校・教育やスポーツ関係をはじめとしたイベント会場に活用されている。中央公民館の拠点でもあり、町民とより密接な施設である。</p>	A: 住民が自由に活用できる、使いやすい、地域に根ざした行事の魅力を高める公共の施設が存在する。 BC: 住民が使用可能な施設が存在するが、課題がある。

◆経済的自立

入りを増やし、出を制する、経済的な自立を目指す努力	格付評価	B	
①広域連携を含む食、住、エネルギーの地域内の自給を高める努力がされている 【美の基準】 ・食に関わる職人		<p>■じゃがいも栽培 大手菓子メーカーとの提携によるじゃがいもの栽培。上向地区に畑作センターを整備し、拠点として強化。町内だけに留まらず、町外も含めた自給率向上に努めている。</p> <p>■若者定住促進住宅 町外からの若年層の定住を目的とし、町の住の自給を高めるための事業。現在2地区にあり、今年度新たに建設される。</p>	A：食・住・エネルギーの自給や地域通貨の導入により、地域内でお金が循環する取り組みがされ、継続的に地域の自給率を向上させる仕組みができている。 BC：地域内でお金が循環する取り組みがされているが、課題がある。
②美味しい村づくりへの地域をあげた取り組みが展開されている(地域の美食革命) 【美の基準】 ・食に関わる職人		<p>■小坂七滝ワイナリー 2017年開業。町内産の「山ブドウ」系品種を原料に、"純小坂産"の日本ワインを醸造している。イベント等での普及はもちろん、小坂町乾杯条例の制定や町全世帯へのワイン購入券の配布など町民とより密接な特産品となるための取り組みを強化している。</p> <p>■小坂町かつらーめんBoo会 地元住民による裏メニューからはじまったグルメの普及を目的に町内7店舗が参画して組織されている。「桃豚」をはじめとした地元ブランドの豚肉を使用し、個々の店オリジナル味で普及に努めている。</p>	A：伝統的な料理法により地場素材を活かす多様性のある美味しい食が存在し、地域住民の誇りが醸成されているとともに、交流人口の増加など地域経済の活性化に貢献している。 BC：伝統的な料理法による地域資源を活かした美味しい料理があるが、課題がある。
③ツーリズムを支える地域にお金が落ちる宿やレストランの選択肢がある 【美の基準】 ・食に関わる職人		<p>■小坂七滝ワインとのマリアージュセミナー シニアソムリエを講師に迎えたセミナーを通じ、町民や事業者がワインと地元食材の魅力を学ぶ機会を設けている。</p> <p>■十和田湖西湖畔整備・誘客促進協議会 十和田湖の宿泊業者をはじめ、関係する事業者による組織で、町が事務局を担当し、二次アクセスの運行や情報交換を通じ、その名のとおり整備と誘客を促進する取り組みを行っている。</p>	A：それぞれの価格帯に応じて、美しい村連合の志を尊重した質の高い宿や質の高いレストランが複数存在し、交流人口の増加や地域の雇用の拡大など活性化に資している。 BC：質の高い宿やレストランが存在するが、課題がある。
④若者や女性の雇用や起業を支援する活動が展開されている 【美の基準】 ・食に関わる職人		<p>■起業支援 創業チャレンジ事業（創業支援補助、雇用奨励金の支給）</p>	A：地域で若者や女性の雇用拡大や起業を支える仕組みや活動が複数展開されており、現実に起業や雇用創出などによるU/Iターンの増加で具体的な成果が出ている。 BC：若者や女性の雇用拡大や起業に取り組んでいるが、課題がある。
⑤地域資源を活かした持続的な地場産業が複数育成されている 【美の基準】 ・庶民の手仕事 ・生業作り ・食に関わる職人		<p>■十和田湖ひめます 和井内貞行氏が生涯をかけて十和田湖への魚の養殖を成功させてから、100年以上もの年月が経った現在ではふ化場が整備され、その技術が受け継がれ、「十和田湖ひめます」としてブランド化されている。</p> <p>■製錬技術を活かしたリサイクル事業 小坂鉱山の繁栄にかつて大きく寄与した製錬技術を活かし、携帯電話など電子部品から金属を抽出するリサイクル事業が盛んに行われている。</p>	A：地域資源を活かした地場産業が複数育成され、具体的に地域の雇用確保など地域経済活性化に貢献している。 BC：地域資源を活かした地場産業の育成に取り組んでいるが、課題がある。

自己評価チェックシート

※首長の想いやリーダーシップ、および今後のビジョン展開		格付評価	B	
首長の想いや、リーダーシップが発揮され、今後のビジョン展開が明白であること			まちづくりの根幹となる「第6次小坂町総合計画」を策定し、“ひとと自然と文化を未来につなぐ魅力あふれるまち”を目指した取り組みが行われている。 首長や行政だけでなく、町民や団体組織とともに共有し、課題や解決策を議論し、合意形成を図る場を設けながら、取り組んでいるものの、町民の末端までその取り組みおよびそれに対する考えが行き届いているかというと課題が多く、行政に依存する体質が根本的に解決されているとは言い難い。 この課題を前進させるためにも、町民に対してこれら取り組みへの認知度アップをさせること（行政サイドとしては情報発信力の強化）、町民が町に誇りを持つこと（行政サイドとしては誇りを持てる体制および事業の確立）、次世代へ継承していくこと（行政サイドとしては継承させるための働きかけ、協働）が求められる。	A: 30年先を見据えた村の長期ビジョンが明確になっており、首長のリーダーシップの元、目標をを目指して住民と行政が一体となった取り組みが着実に実行されている。 BC: 首長に美しい村の理念と合致したリーダーシップやビジョンがあるが、持続性や安定性、実行力、住民意識などに課題がある。
※上記内容では、判断できない点の評価		格付評価	A	
※上記内容では、判断できない点の評価			旧小坂中学校の校舎を現在の役場として活用したのを皮切りに、廃校となった旧七滝小学校の校舎を七滝活性化拠点センターとして整備し、町内外から貸事務所として利用され、現在テナントが埋まっている。その中でも特に日本語学校や武芸道（刀）の道場としても利用され、町外からの移住者を迎えるとともに、町外との交流人口の拡大や国際交流の拠点としても機能し、町へ大きな貢献をしている。	
総合評価	B			
●格付毎の判断基準	A: 最も美しい村としての条件を十分に満たしており、全加盟村にとって模範的な状態である。 B: 最も美しい村の基本的条件は満たしているが、まだ不十分な分野も一部あるため、更なる格付け向上への改善努力が望まれる。 C: 最も美しい村として認められるだけの最低限の条件を満たしているが、不十分なところがまだ多くあり、抜本的な改善のための努力が望まれる。 D: Cの基準に満たない（または該当がない）			
模範 : A 許容 : C				